

東部の窓

～校長室だより～



豊川市立東部小学校

令和7年12月15日

【←ヤクルト出前授業(2年・特別支援)より】

本質 ～マラソン大会より～

12月4日、校内マラソン大会を実施しました。体育でのかけ足運動も含め、子どもたちは自分の目標やめあてに向かってがんばることで、充実感を得ていることと思います。苦しい場面があった子もいたかもしれませんが、乗り越えようとしたり継続して努力しようとしたりした子どもたちのがんばりを認め、褒めていきたい思いです。

運動が、特に走ることが苦手なAさんやTさんを、6年であつて私が担任したときのことのお話をします。AさんやTさんのマラソン大会後の振り返りの内容を、数十年経った今でも覚えています。

- ◆あきらめない気持ちが必要だと思いました。順位がすべてではないんだな。(A)
- ◆大会を終えて思ったことは、持久走は自分のタイムをいかに縮めるかということに意味あるということです。(T)

陸上競技をする人にとって最大の目標は今までの自分の記録を上回ることでしょう。レースの順位も大切かもしれませんが、去年の大会の記録（あるいは今年最初に記録したタイム）の更新こそ、陸上で求めることの「本質」と言えるでしょう。とするならば、2人の言葉はその本質についています

AさんやTさんを含めたこのクラスを受けもって持久走の学習を始めたとき、「去年の大会の記録からどれだけ短縮することができるか」ということを、クラスでのめあて・目標に設定しました。自分なりの目標タイムや短縮したい秒数を考えさせ、みんながかけ足期間で一生懸命走り続けました。その結果、たくさんの子が大幅に去年の大会での自分の記録を短縮することができました。そしてAさんやTさんは大会の順位は最下位に近かったですが、去年のタイムからの短縮秒数は、学級でトップクラスでした。努力の証です。

校内ではマラソン大会の1～10位の子どもに集会で表彰状が渡されました。私の学級では、レースの順位に関係なく、短縮率トップ10の子たちに自作の賞状を渡しました。「もう一つのマラソン大会」の表彰です。レースのほぼ最下位の2人が短縮率優勝や3位の賞状を受け取り、クラスのみんなから拍手を浴び、照れ臭そうに笑っていました。かけ足中つらい場面もあったと思いますが、そこから目をそらすことなく、真正面から立ち向かっていった2人の態度や取り組む姿勢こそ価値がありました。

レースをするからには1位の子もいれば、最下位の子も現れます。順位のみに一喜一憂するのではなく（順位を上げるために努力することも大事ですし、意欲を喚起させる要因にもなるので必ずしもいけないことではありませんが）、自分なりの目標をもち、つらいことから目をそらさず、課題を克服するための方法を考えがんばることが、何より大切だと思います。

本校でも大会を終え、大会当日だけでなく練習期間中を通して、どんなことに気づいて、どんなことを得たか、何が次につながるかを「自覚」できるように振り返らせました。そして、他の学習分野においても新たなめあてをもてるように後押ししていきます。それが教職員である私たちの役目だと思うからです。

【R7 東部小マラソン大会優勝者】

1年 (800m)	男子	河合 洸太郎	3分51秒
	女子	藤園 唯禾	3分56秒
2年 (800m)	男子	岡西 皇海	3分28秒
	女子	山本 かほ	3分36秒
3年 (1000m)	男子	鈴木 快治	3分51秒(新)
	女子	岡田 優菜	4分31秒
4年 (1000m)	男子	福田 壮策	3分44秒(新)
	女子	長谷川 心美	4分01秒(新)
5年 (1200m)	男子	筒井 翔生	4分33秒
	女子	森岡 にこ	5分15秒
6年 (1200m)	男子	中村 陸人	4分23秒
	女子	渡會 杏奈	5分32秒

※(新)…歴代記録更新者



